

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本動物学会	4
日本RNA学会	3
日本環境変異原学会、日本放射線影響学会	2
日本蛋白質科学会	2
Society for molecular biology and evolution (SMBE)	1
グルコサミン学会	1
ゲノム微生物学会	1
モデル生物丸ごと一匹学会	1
酵母フォーラム	1
質量分析学会エビジェネティクス研究会	1
植物学会藻類学会日本生物工学会	1
蛋白質化学学会、日本分子生物学会	1
動脈硬化学会、薬理学会	1
日本ウイルス学会、日本肝臓学会	1
日本エイズ学会、日本ウイルス学会	1
日本がん分子標的治療学会	1
日本バイオインフォマティクス学会	1
日本家禽学会日本家禽学会日本栄養・食糧学会	1
日本再生医療学会	1
日本獣医学会	1
日本植物学会植物形態学会	1
日本神経化学会	1
日本進化学会	1
日本進化学会、日本バイオインフォマティクス学会、RNA学会	1
日本生物物理学会	1
日本生物物理学会、日本バイオインフォマティクス学会	1
日本生理学会	1
日本蛋白質科学会、日本結晶学会	1
日本動物学会、日本応用動物昆虫学会	1
日本動物学会、日本生物物理学会	1
日本脳神経外科学会	1
日本農芸化学会	1
日本繁殖生物学会	1
日本免疫学会、日本リウマチ学会、日本耳鼻咽喉科学会	1
日本免疫学会日本アレルギー学会	1
薬学会	1

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	挙げられた2つの核について何も考えず、ただ「良い研究してるだからお金ちょーだいよ」と国に要求するだけの、ガキんちょ(ただし大人の駆け引きも知っている、というもっとも醜い)研究者が多いから。ただ、そういう連中が、今回の企画で目が覚めたかというところ、うちのボスを見た限りでは、まだまだ治療が足りない気もする。
※	1	サイエンスをアートで表現することで、一般の人にもなじみやすくなると思う。
※	1	(1)については参加していないので分からない。(2)については、一般の人のサイエンスに対するハードルが下がったという点で良いと感じた。また、アートや音楽、あるいは昼食会といったイベントを通じて、研究分野という枠を超えて知り合いが増えることは、個人レベルで見てもいいことだし、サイエンスをする人達というレベルで見ても、新しいシナジーを生み出すことが期待されるという点で良いと感じたから。
※	1	「研究者でない人にも興味を持ってもらう」ということの重要性を感じられたから。
※	1	研究者全体で研究環境をより良い方向に変えていこうという意識が学会を通じて広がっていくような印象を受けたためです。
※	1	税金を使って研究している以上、研究者以外にも研究の内容に興味を持ってもらって伝えることは研究者の使命だと思うから。
※	1	幅広い年齢層や分野の人々が多く集結する年会だからこそ、今までにない企画をやることで、様々な意見を一度に聞くことが出来ていいと思います。
※	1	学会長の先生というこれまで雲の上の存在でしたが、近藤先生のお人柄やお考えが共有されて、これまでの学会にない新しい取り組みが実現したのが素晴らしいと思いました。最終日の大屋食会は実験の都合で参加できず残念でしたが、企画のセッションなど、とても勉強になりました。JAZZのメンバーの方々が学会員の方で構成されていたのも良かったです。またこれからも、分子生物学会から日本の学会に新たな風を起こしてほしいです。どうもありがとうございました。
※	1	年会の本質をわからずにただ「ふざけすぎだ」などほざいていた老人はさっさと引退すべき。
※	1	閉塞感の打破につながる可能性を感じたから
※	1	上記のチャレンジは、研究者の社会における流動性を提供できる機会を提供できるような気がしたため
※	1	我々の持つ共通な問題はいずれ解決・改善する必要があり、それに触れたことはとても良い機会だったと思うから。
※	1	今までにない学会を創っていくうえで良いと思う。
※	1	楽しかった
※	1	研究者社会での分生の役割を、よく理解したコンセプトだと思う。学術講演を聞きたい・話したいならもっと細分化された、小さい学会なりシンポジウムなりでガッツリやるべき。分生は祭り。
※	1	毎年あそこまでやらなくてもよいが、ああいうことができるのは巨大会社たる分生だけだと思うので、やるなら分生でやるのが良いと思われる。
※	1	近年、サイエンスにおける学会の在り方に注目が集まっている。その中で、学術講演以外のイベントを開催することで参加者に対して研究費や不正について情報提供していただけたから。
※	1	非常に面白かった。
※	1	ポスドク、ドクターの学生にとっては就職活動はなかなか大変なところがある中で、学会に参加しながら就職活動について考える機会があって、今回大変助かりました。
※	1	結果がどうだろうが、問題を解決するために実際にアクションを起こすことは大事だと思います。
※	1	学術講演のみでは、このように大きな学会を行う意義が少ないと考える。自身の専門分野のみのコミュニティであれば学術講演のみでも構わないが、様々なバックグラウンドを持つ研究者が集まるのだから、研究者の様々な問題について話し合うことはよい機会になると思われる。また、アウトリーチ活動は個人の裁量に任せるだけではなく、やはり研究者たちのコミュニティでもって行うものであると考えるので、今回の年会は非常に素晴らしいものであったと感じた。
※	1	学会は雰囲気がおかたいイメージが強く、自分の発表機会がないと参加するつもりにはならないが、今回のように様々な親しみやすい企画がたくさんあると、自分の発表がなくても行ってみようという気になるので。
※	1	分子生物学会のような大規模・多分野融合の学会でないと、こういった大きな問題は扱えない。ただ、企画の時間帯は、ほかの学術講演に支障がないよう設定すべきだと思う。
※	1	非常に有意義な時間を過ごせました。特にガチ議論は、多くの若い研究者と今後の日本科学技術について様々な意見を聞く事が出来ました。
※	1	研究を行っていく上で、直接研究に関係すること以外でも様々な問題に直面する。研究における不正防止やアウトリーチ活動などの問題はその一部であり、多くの研究者は一度は考えたことのある問題だと考える。そのような問題について学会という多くの人が集まる場で議論することは大変意味があると感じた。
※	1	年に一度の学会で学術講演しか行われないうのは非常にもったいないと思われます。今回のようにいくつかの「息抜き」とも言うべきイベントがあることは非常に良いと思いました。
※	1	最終目的は、研究者が学会という場で分野の垣根を越えて議論したり意見交換する場として機能するかということであると考えるため、参加しようという気持ちになる魅力的な学会を模索するのは賛成である。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	いつもどおりの学会で必要なことは最低限満たされているとは思いますが、何か研究や学会のあり方、サイエンスというものの意識を変えていきたいという姿勢がよく伝わったから。
※	1	海外ポスドクの件については、非常に良いという意見を耳にした。また、バイオインフォマティクスなどのディスカッションの場を設けたことについても、有意義であったと感じた。しかしながら、その他の点に関しては、単なる「遊び」というようにも捉えられても仕方がないのではないかと思う。
※	1	一気に様々な分野の話を集約して聞くことができると感じたから。また、私のような学生でも目上の方に気軽にポスターなどでアドバイスをいただき、今後の研究のアプローチの仕方のヒントを得ることができました。
※	1	学者は広い視点で物事を見るべきである。学術的な事柄しか視野に入らない状態は良くない。
※	1	私達ががどんなことを考えている集団なのか、研究者以外の人々に明確に示すことができたから。以前、得体の知れない集団と思われていた状態から大きく進歩したと思う。
※	1	最終日の2050年分生を始め、アート作品への取り組みは評価されてしかるべきだと思います。笑いあり、突っ込みあり、サイエンスアート作品には考えさせられるものがありました。
※	1	分生生物学会のような大きくて発信力のある学会でしかできないし、かつ取り組むべきものであると感じるから。
※	1	研究者の方々が普段どのようなことを考えておられるのか、垣間見ることができたので。
※	1	コンセプトは悪くない。ただ、参加する科学者のスキルアップ、情報獲得という視点が欠けたのが残念。
※	1	学会に一般の方々が参加することで、よりサイエンスアウトリーチの幅が広がったように感じたから
※	1	常に考えるべき事柄であると思うが、学生の立場ではあまり触れないから
※	2	「学術講演以外はするべきではない」とまでは言わないが、学術講演にもっと力を入れて欲しい。前回のように口頭発表に自由に応募できるような形が良い。
※	3	参加したかったが、時間が合わず、参加できなかった。
※	3	自分の発表以外には参加していません。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答		
1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 3. 「学会とJAZZの融合」 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) 8. 特別企画全般について評価していない 9. 特になし		
※	質問7 回答	理由記述
※	1	安宅和人さん、鈴木寛さんなど、論者の人選が素晴らしい。科学者に無い視点から意見を貰えてよかった。
※	1/2	参加はしていないけれど、特に2番には非常に興味があった。「真面目に研究『だけ』していれば、良い企業に就職できる」「だから、大学にいる間は大学の研究『だけ』に専念しろ、会社の研究なんてくだらない」なんて時代は終わった(馬鹿の一つ覚えのように繰り返す、古き良き時代の苦労知らずのボスはいまだに多いが)。企業の研究の深いところまで聞ける2番のような企画は、非常に価値が高いと思う。
※	1/2	Q6回答と同様
※	1/2	ガチ議論、特別シンポジウムの両方とも立場が偉いというだけの方々の言い訳のオンパレード対しっかりやってくる人の甘いという喝が感じられる枠組みであった。特にガチ議論は教授陣が単なるわがままな子供だということがよくわかった。上の立場の方を当てにしていはいかんなとしみじみと感じたので将来の方向性を変えるきっかけになったから。
※	1/2/3/4/5	Q6とほぼ同じ。今までの年会ではなし得なかったシンポジウムについては、サイエンスの面白さを再確認できるという点で良かった。
※	1/2/3/4/5/6	どの企画も、今年で完結ではなく今後繰り返し開催して成熟させていくものだと思うから。そうすることで、海外から自腹を切っても参加したいという人が出てくるような魅力を持った企画になると思う。
※	1/2/3/4/5/6/7	大学のあるべき姿だと思う。
※	1/2/3/4/5/6/7	普通の学会にはない発見や出会い
※	1/2/4/5/6	面白かった。研究に遊びの視点は大事。
※	1/3/4	「生命科学研究を考えるガチ議論」自分は参加出来なかったが、参加した人からの話を聞くと、聞いてみたいと思った。「学会とJAZZの融合、サイエンスとアートの接点」学会の雰囲気と合っていて、良いと思う。
※	1/3/4	JAZZやアートに関して、ポスターや公演の合間の休憩に非常に役立ったから。
※	1/3/4/5	勉強になりました。そしてさまざまな広がりを感じました。
※	1/3/4/5	公開プレゼンテーションは一般向けに意識したせいか真面目すぎて眠かった。
※	1/3/4/5	音楽と芸術を盛り込んだ学会はとても楽しかったです。自身の世界観も広がりました。
※	1/3/4/7	ガチ議論は色々考えさせられるきっかけとなった。ただ議論が堂々巡りで、研究社会のブラック体質を変えるというところまで議論が至らなかったのが残念だった。もっと良くなると思う。
※	1/5	良い企画は良かった。これは違うのではないかと企画もちらほら見受けられた。
※	1/5/7	JAZZやアートについては、面白かったが必要かと言われると疑問。ガチ議論は大変ためになったし、この手の問題に関して前進した実感が得られるので、今後も必要な企画だと思う。ただ、時間帯・進行予定をもう少し改善してほしい。トークショーは、内容を変えて毎年行えれば名物になるのでは。毎年だとクオリティーが下がるかもしれないが、こういう全体のレクリエーション的な企画があったら面白いと思う。海外ポスドク招致については、費用の問題があるかもしれないが、今後海外に行く予定の研究者にとっても有難い企画で、留学への後押しになると思う。国内にいる研究者にとってもいい刺激になる。
※	2	生命科学研究の一つの大きな目的が医療への貢献だから。
※	2	色々な会社の話が聞けて参考になった。
※	2	学術的にとどまらず、もっと企業も含めて複合的に盛り上がっていると素晴らしいと思います。
※	2/3	普段なかなか聞くことができない内容を生で聞くことができた。
※	2/5/6	学会は雰囲気がおかたいイメージが強く、自分の発表機会がないと参加するつもりにはならないが、今回のように様々な親しみやすい企画がたくさんあると、自分の発表がなくても行ってみようという気になるので。
※	3	演奏している先生方が楽しそうだったので。
※	3/4	個人的に楽しめた。
※	3/4	サイエンスとアートの写真展を見て、純粋に科学や生物が好きで研究をする道に進んだ事を思い出せた。JAZZは普段ばりばり研究をされているかたが楽しげに演奏されているのを見て、より研究者の方々を身近に感じる事ができて、前よりもディスカッションしやすくなった。
※	3/4	応用や社会の役にたつといったこと以前に、サイエンスはもともとアートの一部のようなものであると思うから。
※	3/4	あって悪いものではない。JAZZの方は、学会に疲れて一服する時にいい感じだったし、アートの方は、ただ純粋に面白かった。
※	3/4	JAZZよかった
※	3/4	疲れたときの気晴らしになったので。
※	3/4/5	学会でシンポジウムだけというのは物足りないし、全日程の全ての内容に興味を持てるわけではないと思います。そのような場合の息抜きとして非常に良かったと思います。
※	3/4/5	Q6同様です。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 | 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 |
| 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 | 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) |
| 3. 「学会とJAZZの融合」 | 8. 特別企画全般について評価していない |
| 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 | 9. 特になし |
| 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」 | |

※	質問7 回答	理由記述
※	3/4/5	学会=退屈という概念が覆された。科学、芸術、エンターテインメントどれもすばらしいものばかりで、それぞれが融合した場に参加できることができ、非常に有意義な時間を過ごせた。
※	3/4/5/6/ 7	3および4に関して: 研究や、研究者自身に興味を持ってもらうため、アートとサイエンスが一体となるのは素晴らしいアイデアであると思う。次はこのような企画が外部で行われるべきであるので、その前段階として十分な可能性を示してくれたのではないかと思う。5および6に関して: 先端を走る研究者たちの人間性を堪能できる素敵な企画であったと思う。ともすれば接点を持ってないほどの気鋭の先生方の心情をかいま見たことは大変素晴らしい経験となった。7に関して: 海外ポスドクが参加していたことで、海外での研究模様を聞いたことは、今後の自分自身の身の振り方について考えるきっかけとなった。
※	3/4/5/7	もともと芸術に関心があるため、おもしろかったから。
※	3/4/6	研究とは異なる視点でのつながりができることで通常の学会では考えられなかった人の輪の広がりができました。それをきっかけに今までだったら積極的に聞けなかったかもしれない研究内容についても触れることができ貴重な経験でした。
※	3/7	普段ジャズを聴かないのですが、聴きながら落ち着いた雰囲気の中で学会を過ごすことができたから。
※	4	一見すると異なる分野であるサイエンスとアートですが、作品から違いきりくちからサイエンスをみつめるという気持ちになれるという意味ですごく良いなと思った。
※	4	恐竜イラストを手掛ける小田隆さんのトークショーが印象的で、アカデミックや産業界以外にもライフサイエンスを活かした仕事を手掛けている人たちの世界が垣間見えて非常に新鮮だった。
※	4/5/6/7	1と2は不参加でした。JAZZはあってもいいですが私は普段から関心がないです。最終日のイベントは他の学会では経験したことのないエンターテインメント性があり、役作りなど入念に準備されていたことに感銘を受けました。
※	4/5/7	楽しかった。楽しくないものにはなかなか寄ってこないもので、間口が広がった。最終日の3企画は良いのもっとやるべき。
※	7	・自分の専門に関わる口頭発表の時間に被っている場合はそちらを優先したため、結果的にあまり特別企画を回ることができなかった。・「2050年シンポジウム」についてはやった意義が見いだせなかった。・「生命世界を問う」については演出等は素晴らしいと思ったが、どうしてもTEDのトーク内容と比較してしまうため、肝心のプレゼンターの力量が微妙に感じられてしまった。・チャレンジ自体は良いと思った。特に前例のない段階からここまで作り上げた事については賞賛を送りたい。
※	7	今後、自分が海外留学をした時に日本との繋がりを持てる一つのきっかけになると感じたから。実際、海外ポスドクの先輩と久しぶりに日本で会うことができ、たくさん情報交換をできたから。
※	7	海外ポスドクのレベルの高い研究発表が聞けた。
※	7	自分がこれから海外に留学した際に、日本に戻ってくる機会が増えるから
※	9	参加したかったが、時間が合わず参加できなかった。しかし、幅広く取り組んでいることがわかり、参加意欲を持った。時間が許せば参加したいと思う。
※	9	参加していないため、回答できない。
※	9	「サイエンスとアートの接点」に期待していたが、イマイチだったようにおもう

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	演題の検索システムが使いにくいと感じた。(検索語“ex”だと“extra”が検索からもれるなど)
※	全ポスターの表題一覧PDFがあると良かった。
※	Likelによって事前からのつながりができるのがいいと思いました。ディスカッションも盛り上がると思います。
※	冊子を一切なくすのであれば貧弱な検索だけはどうかすべき。
※	前回と比べ、システムの安定度が格段に増しており、使いやすかった。一方でリンクやリコメドがあまり機能していないようにも思えた。
※	iPadやiPhoneを持ってない若者だっていることも考慮してほしい。
※	検索システムに柔軟性がもっと必要だと思った。学校名からの検索や分野での検索など。
※	検索機能が使いこかった。
※	Likeしたアブストラクト等をPDFなどの形でアーカイブしてダウンロードできると嬉しいです。
※	抄録集が見つらなかった。せっかく細かい分野に分けてあるのだから、その分野くらいは抄録をまとめてあると見やすいと思います。
※	会場にWi-fiがなくて困った
※	Secret likeを一度押すと、likeに変更できなくなるのが不便でした。likeだけでなく、ブックマーク機能を充実させてほしいです。冊子のようにポスターの演題すべてを一覧で見られるような機能が欲しいです。冊子をパラパラめくって、たまたまおもしろそうな演題が見つかるような楽しさを電子媒体でも再現してほしいです。スマートフォンで見られるのは良かったです。
※	日付や演題形式(シンポジウム, ポスターなど)を指定して検索できないのが使いづらかった。
※	電子機器を使うことあり気の学会だったにも関わらず、充電できるようなポイントを設置していないところが配慮が足りないように思った。
※	マイスケジュールと全体のスケジュールがちゃんとリンクしないというか操作しにくかった印象がある。
※	web上で議論できるようにするとよいかも演者の発表に聴衆がコメントするなど

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	印刷版のプログラム集については、そのままよいと思いました。しかし、ポスターを探すときに、検索機能が使いづらかったです。もしかしたら、存在していたのかもしれませんが、キーワードを入れたら、日にちごとに検索結果が表示される機能がほしかったです。もしその機能が存在していたなら、気づきやすくしていただきたかったです。
※	ポスターのタイトルだけでも冊子にあると便利だと思った。
※	冊子を一切なくすのであれば貧弱な検索だけはどうかすべき。
※	ポスター演題プログラムは載せてほしい。(簡略化したものでも良い)
※	ポスターのタイトルだけでも追記して欲しい。
※	軽量化は支持するが、索引はあった方がよい。
※	電子端末の所持率は高くなってきているとはいえない、やはり冊子版のものも希望者には有償で提供するといったことは必要だと考える。
※	ポスター演題プログラムが別冊で欲しいそれが、日付別で分冊になっているとなおいい
※	紙媒体については無償版は薄くコンパクトに従来様の暑い要旨も有料で手に入るようにすればよいかも

質問11. シンポジウムについて（その他）

※	その他記述
※	体細胞分裂、減数分裂など細胞分裂関連のシンポジウムを望む。
※	疾患関係が多かったかと思う。
※	テーマはほぼ適切であると思うが、どんどん医学方面に偏っている、分子医学生物学会になっているかもしれません。
※	もっと偏ったテーマを取り上げてほしい。

質問12. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	染色体複製や感染症関係のように、内容の重なっているようなワークショップを複数設定するのは(自分が関係ない分野なので余計に)若干不公平な気もする。
※	聞きたい口演を全部聞こうとすると1つの時間枠内で遠い会場間を行ったり来たりしなければならなくて不便だが、分野が多岐に渡るので仕方ない。
※	シンポジウムとワークショップの違いがよくわからない。はっきり分けるべき。
※	シンポジウムと同様です。

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスター会場1と2, 3が離れすぎていて移動がしんどい。
※	もう少し同じ分野を同じ日にまとめてもらえると参加しやすい
※	偶数・奇数番のポスター発表の後にある討論時間になると多くの人がポスターを剥がしてしまっていて、この時間が設定されている意味がなかったように思う。
※	口頭発表のレベルが特に上がったようにも見えなかったので、是非ポスターからの採択も再考してほしい。
※	ポスター会場が離れすぎている。演題を絞るのもいいし、神戸会場の限界ではないか？
※	likeの多いポスターを口頭発表にしてほしい
※	ポスター会場が離れすぎているのは頂けない
※	回りきれないが仕方ない。
※	時間が長い。2時間で十分。
※	ポスター討論も興味ある演題が多くよかった。ただ、1時間+1時間+1時間だと最後の1時間は質問に行っても演題が片づけられていることが多かった。だから、1時間30分x2にするべきだと思う。
※	ポスター会場を分離するのをやめて欲しい。しんどい。
※	ポスターが多すぎて会場が分かれてしまうのはよくない。
※	ポスター会場を一箇所にまとめて欲しかった。あまり離れていると移動が面倒。自由討論の時に人がほとんどいないので、そこを改善してほしい。

質問14. 高校生の発表(年会参加)について (その他)

※	その他記述
※	学会の規模の割に参加数が少なく、正直やる必要性を感じない。もっとローカルな学会のほうが高校生も参加しやすいように思う。
※	タイミングがつかめず見なかった。しかし高校生が参加する事自体は大賛成。ポスター発表にしぼって一般のポスターの方に混ぜてしまう事も検討してみては？セパレートする意味は無いと思う。

質問15. 企業説明会 & リクルートブースについて（その他）

※	その他記述
※	参加していないので実際は分からないが。有名大学卒業＝無条件で大企業に就職、だった昔とは違うのだから。マッチングを深める意味で、こういう企画はもっと充実して良いと思う。
※	リクルートブース・・・？
※	どこでやっているのかがわからなかった

質問16. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	会場に入りきれないシンポジウムがいくつかあったので、規模に合わせて会場も拡大させてほしかった。
※	2つのポスター会場が遠すぎる。
※	適当だと思う。萌芽的な企画やワークショップが成立するのは人数が多いからこそ。小さな学会は、その点どうしても人数の集まるワークショップを開かざるを得ず保守的になりがち。分生には多様な研究者が集まる利点を学術的な面で生かしてほしい。
※	特になし。結局は個人でどう動くかだけだから。
※	一長一短だが、大規模だからできることもあり、分生はこれでよいと思う。
※	設問の意味がよくわからない。参加者の数が規模を決定するのでは？
※	参加者が座りきれない部屋が多すぎと思った。

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

その他記述	件数
日本生化学会	2
遺伝学会, 進化学会二つとも例年夏~秋に開かれているため調節は難しいと思うが, 合同開催できればその意義は大きい.	1
生化と共催でもよい	1
生化学会	1
日本遺伝学会	1
毎年、いろいろな専門学会と合同開催し、「分子と○○」というようなシンポジウムを開催していくと、いろんな分野の研究者と触れ合えて嬉しいです	1

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	どっちでも良い。というか、分子生物学会だけで開催しちゃいけない理由ってあるんですか？規模も十分でしょう？
※	会場がいくつかの建物に別れていて、行き来が非常に面倒だった。会場は1つにまとめた方がスムーズにできると思う。
※	十分な規模で活気もあるので、これ以上学会をかぶせるのはビジーだと思う。
※	生化学会と分けてる意味が分かりません。

質問18. 理事会企画のフォーラムについて（その他）

※	その他記述
※	開催の時間帯がよくない。学術講演とかぶっているとそちらを優先してしまう。
※	<p>内容はよかったです。時間帯がWSと重なっていたのが残念です。高名な先生がたくさんいらして、真剣に議論を重ねていたことに関心の高さが伺えました。しかし、学生の参加者はほぼおらず、NHKの方が仰っていたように多くが後方に座っていました。私は満席になるものと予想していましたので参加者の少なさにはがっかりです。「不正を見たことがあるか？」のアンケートは再度行ってほしいです。その際は経験年数も考慮してほしいです。私は経験が少ないので見たことはありませんが、経験豊富な先生は一度でも見たことがあれば「はい」と答えます。また、不正がいつどこで(国内か海外かも)あったのかも問うべきです。不正問題がスポーツにおけるドーピング問題と似ているという話は非常にわかりやすく、認知度の高いドーピング問題をロールモデルに、不正に対する研究者の意識を向上させるのがひとつの良い対策になるというのは同感です。公正局は必要だと思います。しかし、世間に対するパフォーマンスを重視して即席で実務能力の低い組織を作っても意味がありません。グレーとブラックゾーンの判断も難しいです。虚偽や噂、私的な妬みや憎悪に基づいたリークに踊らされて公正な研究者を弾糾してはなりません。摘発は証拠十分の「確実にブラック」の場合のみ可能です。ミスは許されず、公正局委員にも大きな責任が降り掛かります。不正を判定できるのはごく近い分野の研究者で、匿名性が高くなければあまりに不毛です。公正局が100年後も機能的組織であるためにも、そのあり方に対しては慎重かつ度重なる議論を望みます。</p>

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	来年はまた、実験データ「だけ」の学会に揺り戻るらしいですね。そこは非常に残念(ポスター議論の充実自体は良いと思う。それも、学会に参加するたびに残念に思っていた点だから)。「流れを固定しきれなかった」という意味では、近藤先生は今一歩詰めが甘かった。
※	分生オールスターズ復活祭をやりたい。今年のような大々的なものは無理と思うが、ワークショップの会場1つを演奏聞きながら内職(休憩?)できるようにするとか。自分が演奏したいだけです。
※	新しい企画が多く試されたのでとても面白かった。今後もこのような挑戦的な企画があるとうれしい。
※	今年の会場(神戸)は広いが、ワークショップの部屋は狭く、立ち見も出来ないことが多かった。もう少し広さに余裕のある部屋を用意していただけるとありがたい。
※	会場が広すぎて回りきれなかった。かなり不便であると感じた。
※	年々ハードルが上がって行って大変なので、今年のような面白い学会はオリンピックみたいに4年に一度で良いのではないのでしょうか。
※	全く新しいスタイルの年会だったのでどうなるか参加側としても不安だったが、結果的にはとても良かったと感じている。「お堅い」学会もいいところはあると思うが、よりサイエンスを発展させていくにはフランクさ(フランクな会話、セッション)が大切だと思う(「こんなこと聞いてもいいのかな、ちょっと非現実的かな」というような意見を言えるような環境からこそブレイクスルーが生まれる気がする)から、今回のような学会は今後も開いて頂きたいと思っている。
※	研究外の企画(音楽や写真)が個人的にはとても良かった。その話題をきっかけになかなか話せない人とも研究の話ができた。一般の人も学会は堅苦しくて、近くで公開講座が開かれていても覗く気さえないという方が多いと思うが、このような作品展があったりすると友人をさそったりしやすいと思うので、一般の方に学会や研究を知ってもらうための企画としてとても良かったと思う。
※	お祭りのような学会で、楽しみながら参加させていただきました。
※	電子化された演題に対してメモできる機能が欲しい。(メモ登録機能)神戸会場は、ワークショップやシンポジウムとポスターの場所が違いすぎて不便。移動を簡便にするためにテーマごとにポスターとトーク会場を併設して欲しい。電子化することで、ワークやシンポジウムに出た人のポスターに見学者が偏り、他のポスター参加者の演題を調べ難い。
※	ポスター会場同士がすぐ近くにあった方がいい。今回は離れ過ぎていた。
※	どうもありがとうございました。
※	大変だとは思いますが、是非今年のような挑戦を続けて欲しい。
※	来年度の学会は研究不正などの問題に対峙しない、ただの自己保身極まりない研究集会だと聞いているので何も期待していない。
※	チャレンジしなければ何も新しいものは生まれません。その点で今回の試みには大変感銘を受けました。素晴らしい年会をありがとうございました。来年は学術中心ということである意味「揺り戻し」があるのかもしれないが、数年ごとにこのような変化球はあって良いと思う。今回の年会のような「チャレンジ精神」が分生のもう一つの伝統になることを望みます。
※	年会費を安くしてほしい。
※	会場が広いところを使用してほしい。
※	大規模な学会を行うには会場に限られているのは承知しているが、今年はシンポジウム等で立ち見が多かった。また小さい会場ではスライドの下方部が見ることができなかった。開催地を固定してしまうのも良くないが、何か改善してほしい。
※	大変面白かった
※	昼食会楽しかったです！ワインありがとうございました！
※	会場の場所によっては、Wi-Fiが拾えなくて困った。大きい食堂のような場所を設置するか、ランチョンセミナーを増やしてほしい。体力が持たない。
※	楽しかったです、運営お疲れさまでした！
※	ポスターは1つの会場にまとめてほしい。
※	今年を越える活気ある学会。
※	企業への就職を考えている大学院生にとって、学会において企業説明会などが受けられるのはとても良かった。特に、学会の開催時期が、一般的に就職活動解禁とされている12月の頭であったため、他所で合同企業説明会などが開催されている場合も多く、そういったものに参加できない学生には助かったのではないかと思います。今後は参加企業数をもっと増やしてほしい。
※	今後も参加していきたいと思う。
※	全員参加型の企画は面白かった。是非続けてほしい。
※	今年初めての参加でしたが、とても勉強になりました。来年度も是非参加したいと考えております。
※	ジャズとアート、どちらもは無理かもしれませんがどちらかは今後の年会でも企画していただきたいです。
※	今回の「新しい分子生物学会年会」の形が、今後も続くことを楽しみにしています。
※	ポスター発表に関して、どういったスタイルで行うのか、HPを何度見てもよく分からなかったため、mbsj2013@aeplan.co.jpにメールしたが、返事がなかった。
※	会場の部屋が狭く、聴講したい演題があっても部屋に入ることすらできなかったため、席数は考慮してほしい。ただ、全体として楽しめた学会であった。
※	会場のエアコンが効きすぎていて、とても暑くてしんどかった。
※	とても良かったです。感動しました。
※	ポスター会場1が他と離れていました。移動時間短縮のために、なるべく近くにしてほしいです。
※	近藤滋年会長、お疲れ様でした。正月はゆっくり体を休めてください。それでは、良いクリスマスを。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	ポスター会場が端と端にあったため、気付かずに見れなかったポスターがありました。地図やシンポジウム要旨等もすべてデータ化されてオンラインで見られると嬉しいです。また、システムの使用方法が書かれていなかったため、使い方を自分で操作して分かるようにするのは、難しい人には難しいと思います。twitter発信もいいですが、もう少し、HPでの発信を増やしてください。「各演題・演者ページの各種リンクやレコメンドが役に立った」という上記の問いですが、レコメンドなるものが存在していたことすら知りませんでした。
※	今回の学会は、まだ科学に深く踏み込んでいない学生にも非常に楽しめたと思います。気難しくて、格式張った垣根をいったん乗り越えれば、サイエンスのすばらしさに気がつくこともできる、そのきっかけの一つとして、今回の学会のコンセプトは非常にすばらしく思いました。後輩に、「学会って、とっても楽しいところなんだよ！」って話して聞かせることが出来てうれしかったです。
※	年会費を安くしてほしい。
※	今回みたく、分生でなければできないものにしてほしい(他の学会と差別化してほしい)